

2010.6.28

---

プレスリリース

---

## 「内外の化繊工業の動向」

2010年 第1四半期

平素より格別のお引き立てをいただき厚く御礼申し上げます。  
このたび、当会では、標記の報告書をまとめましたので、その  
「概要」をお届けします。  
ご高覧下さるよう、よろしくお願い申し上げます。

日本化学繊維協会  
(お問合せ先 業務調査グループ TEL 03-3241-2313)

## 概 要 (2010年第1四半期)

2010年1-3月のわが国の景気は、着実に持ち直してはいるものの、自律性に乏しく、失業率が高水準にあるなど厳しい状況であった。先行きについては、新興国における経済の改善や緊急経済対策の効果などを背景に、更なる回復が期待されるが、欧州景気の下振れ懸念リスクが存在している。

化繊景況は、引き続き厳しい状況が続いている。そのような中、自動車関連需要の回復により一部素材、用途で持ち直しの兆しが見られるもののまだ力強さに欠ける。

### 国 内

- 1) 国内景気は、新興国を中心とした景気の回復により、外需主導で着実に持ち直している。個人消費、住宅建設は持ち直しつつあり、企業の設備投資も下げ止まりつつある。繊維景況は、衣料用では、今期の衣料品売上高は百貨店で衣料品に動きが見られ始めたものの前年比8.2%減、またチェーンストアも6.9%減と、節約志向、中高級品離れにより引き続き厳しかった。インテリア用は、カーテン、カーペット関連が、首都圏におけるマンションの発売戸数は回復(首都圏;前年比20.8%増、近畿圏;13.0%減)、新設住宅着工戸数が2四半期続けて前期比プラスに転じたものの化繊の需要には結びついていない。カーシートは乗用車生産の回復により順調な展開となった。資材用は、自動車関連ではシートベルト・エアバッグが順調に展開、タイヤコードもポリエステルを中心に回復が見られる。また建築関連は、民間投資は非製造業の回復により下げ止まりが見られるが、公共投資は引き続き低調であった。
- 2) 生産指数は、化繊は、前年比24.6%増、前期比4.7%増とともに増加したが、繊維工業全体は前年比2.3%減、前期比2.0%増、紡績は前年比8.1%減、前期比7.3%増と前年比減少、前期比増加であった。一方在庫指数(期末)は、繊維工業が前年比2.8%減、化繊3.7%減、紡績1.6%減といずれも減少している。(生産、在庫とも指数ベースの比較)
- 3) 繊維品輸出は、ドルベースで19.7億ドル・前年比15.1%増、円ベースで1,786億円・11.3%増といずれも増加した。形態別(ドルベース)では、繊維原料(前年比27.9%増)、糸類(40.8%増)、織物類(5.9%減)、二次製品(22.5%増)と織物類を除き増加した。仕向地別では、全体の34%を占める中国は6.8億ドル・7.7%増と増加したものの前年の大幅な減少をカバー仕切れていない。タイ・インドネシア・マレーシア向け大幅増によりアセアン向けが53.3%増と大幅に増加した。また米国(14.9%増)、欧州(8.5%

増)、香港(16.6%増)、韓国(18.7%増)も増加した。

4) 繊維品輸入は、ドルベースで74.7億ドル、前年比4.7%減、円ベースでは6,776億円・11.7%減といずれも減少した。形態別(ドルベース)では、繊維原料は1.3億ドル・0.5%減、糸類は23.4億ドル・15.0%増、織物は2.5億ドル・7.9%増、二次製品は68.7億ドル・5.7%減と繊維原料と二次製品が減少した。仕出地別では、全体の74%を占める中国が7.0%減の55.3億ドルと減少したが、タイ(4.9%増)、インドネシア(5.9%増)、ベトナム(3.3%増)の増加によりアセアンからは6.5%増の7.8億ドルと増加した。その他では、韓国1.6億ドル(14.8%増)、イタリア2.4億ドル(14.1%減)、米国1.2億ドル(0.4%増)であった。

#### 繊維品輸出・輸入実績

項目	単位	09.1-3	09.10-12	10.1-3	前年比(%)	前期比(%)
輸出	千ドル	1,711,487	2,188,688	1,970,271	15.1	-10.0
計	億円	160,397	196,302	178,598	11.3	-9.0
繊維原料	千ドル	268,790	306,073	343,865	27.9	12.3
糸類	千ドル	188,139	245,342	264,807	40.8	7.9
織物類	千ドル	617,133	762,677	580,908	-5.9	-23.8
二次製品	千ドル	637,426	874,596	780,691	22.5	-10.7
輸入	千ドル	7,842,174	8,558,773	7,474,175	-4.7	-12.7
計	億円	734,053	767,310	677,643	-7.7	-11.7
繊維原料	千ドル	126,275	114,519	125,674	-0.5	9.7
糸類	千ドル	203,548	225,092	234,011	15.0	4.0
織物類	千ドル	228,489	261,566	246,626	7.9	-5.7
二次製品	千ドル	7,283,863	7,957,595	6,867,863	-5.7	-13.7
衣類	千ドル	6,276,362	5,330,423	5,793,740	-7.7	8.7
輸出レート	円/ドル	93.7	89.7	90.6	-3.3	1.1
輸入レート	円/ドル	93.6	89.7	90.7	-3.1	1.1

(出所)財務省

5) 化繊生産は23.0万ト、前年比22.1%、前期比0.9%増加した。うちセルロース繊維は4.2万ト・前年比7.3%増、前期比18.2%増。合繊は18.7万ト・前年比26.1%増、前期比2.8%減と、前年同期が大幅に減少したことから前年同期比では増加しているものの、一昨年同期と比較すると未だ80%の水準である。期末在庫は、セルロース繊維、合繊ともに減少し、8.6万ト・前年比24.5%減、前期比14.4%減であった。

化繊輸出(繊維原料～二次製品)は15.1万ト・前年比19.3%増であった。レーヨンスが米国向けの減少により3.8%減(3,269ト)であったが、ナイロンF2.3倍、ポリエステルF25.3%増、ポリエステルS7.5%増、アクリルSは31.9%増といずれも増

加した。合繊織物（面積ベース）は5.1%減、ナイロンF織物は47.0%増と大きく増加したが、ポリエステルF織物11.8%減、ポリエステルS織物20.0%減とともに減少した。また化繊不織布（重量ベース）は長繊維が20.6%増、短繊維は14.1%増であった。

化繊輸入（繊維原料～二次製品）は26.3万トンを11.3%増となった。二次製品は18.4万トン・4.1%増、うち衣類は8.9万トン・2.5%減であったが、繊維原料（1.4万トン・44.8%増）、糸類（4.3万トン・43.2%増）、織物（1.9万トン・13.6%増）といずれも増加した。

化学繊維の主要指標

項目	単位	09.1-3	09.10-12	10.1-3	前年比(%)	前期比(%)
化繊生産	千トン	188	228	230	22.1	0.9
セルロース	"	39	36	42	7.3	18.2
合 織	"	149	193	187	26.1	-2.8
化繊在庫	"	113	100	86	-24.5	-14.4
セルロース	"	16	17	15	-7.5	-11.5
合 織	"	95	83	70	-26.0	-15.0
化繊輸出	千トン	127	149	151	19.3	1.8
	100万ドル	1,049	1,333	1,221	16.4	-8.4
	億円	984	1,196	111	-88.8	-90.7
化繊輸入	千トン	236	341	263	11.3	-22.8
	100万ドル	2,830	3,904	2,872	1.5	-26.4
	億円	2,645	3,502	260	-90.2	-92.6

（出所）経済産業省、財務省

（注）在庫は生産者在庫で各期末

#### 6) 主要合繊品種の動向は次の通り。

ポリエステルF：生産は45,210トン・前年比20.4%増と22期振りに前年同期を上回った。織物生産は8,377万㎡・17.9%減であった。用途別では、衣料用はファストファッションが消費者に受け入れられる中、主力の婦人用をはじめ苦戦が続いている。そのような中、ダウンウェア、スポーツアンダーなどは健闘している。産資用では、主力の自動車向けが自動車生産の回復と在庫積み増しといった事情からタイヤコードをはじめ、カーシート、シートベルト、ゴム資材など総じて順調に展開した。建築向けは、公共投資やビル需要の落ち込みにより盛り上がりを欠いた。フィラメント輸出は7,293トン・前年比25.3%増、衣料、産資用ともに上向いてきた。一方輸入は25,125トン・83.8%増と大幅増。主力の台湾は11,426トン・95.8%増、韓国3,497トン・56.8%増、中国3,262トン・96.3%増、インドネシア3,062トン・2.1倍、マレーシア2,990トン・90.7%増であった。

ポリエステルS：生産は39,789トン・前年比36%増。用途別では、紡績用はウール混の学販向けで底堅い動きが見られたものの、それ以外のウール混のオフィスユニフォーム、綿混、純糸いずれも低調な荷動きであった。製綿用では、定番品は製品の

低価格化もあり安価な輸入品に置き換わりが進んでおり、機能品は、国産品が優位ではあるものの、徐々にではあるが韓国・台湾品に侵食されつつある。不織布用は衛材、生活資材、メディカル、車輛用をはじめ、比較的堅調に推移した。ステープル輸出は9,770 トン・前年比7.5%増。中国・インドネシア等主力仕向け地が増加した。輸入は、韓国(44.1%増)、中国(58.2%増)からの大幅増もあり6,715 トン・前年比57%の大幅増となった。

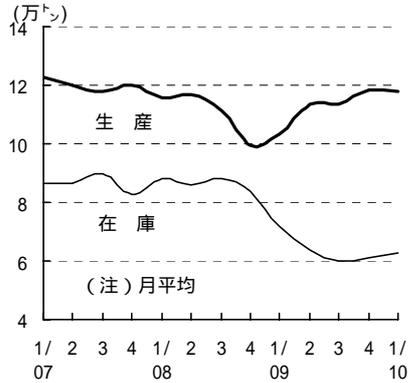
ナイロンF：生産は21,643 トン、前年比25.8%増。織物生産は2,682 万㎡・8.3%減であった。衣料用は、レギンス、トレンカはオールシーズン化するなど堅調に推移した。カラータイツはレギンス、トレンカに置き代わり盛り上がりには欠け、また主力のレギュラーパンストは不振であった。ハイテンションニットは、日本品の品質が評価され順調であった。体型補正用インナーはリピート需要が弱く需要は低迷した。非衣料用は、自動車関連では、タイヤコードではキャップフライ向けは順調であったが、バイアスタイヤ向けは盛り上がりには欠いた。エアバックは自動車の生産回復により好調。タイルカーペットは新築大型物件が乏しい上に、張替え需要の後退により低調であった。フィラメント輸出は、6,181 トン・2.3倍。主力の強力糸が4,050 トン・2.3倍であった。輸入は、カーペット用加工糸(2,448 トン・20.5%増)、衣料用原糸(2,407 トン・41.1%増)の増加により、6,362 トン・30.5%増となった。

アクリルS：生産は31,901 トン、前年比39.9%増、3期続けて前年同期を上回った。紡績糸生産は2,643 トン・5.8%増。ステープル輸出は、主力の中国向けは現地の在庫が大幅に減少したこともあり16,617 トン・24.4%増となった。この他ではインドネシア4,783 トン・32.6%増、イラン2,300 トン・3.4倍と堅調に推移した。しかし、ここに来てAN価格が再び高騰しており、この状況が続くと再びポリエステルへの素材代替が懸念される。用途別では、衣料用はマイクロファイバー使いの保温肌着、婦人軽量肌着が引き続き好調に推移、反面セーターが不振であった。建築寝装用では、毛布はライフスタイルの変化、カーペットは消費者の低価格指向によるアクリル離れが進み、ともに苦戦している。

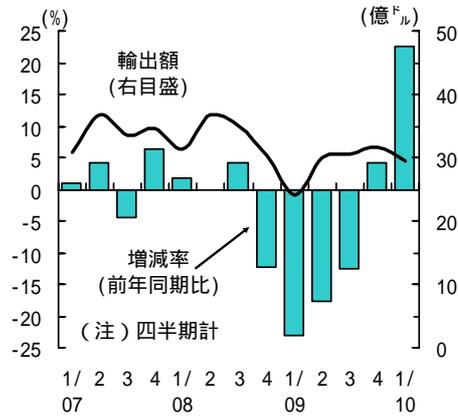
海外

7) 韓国

合繊生産・在庫



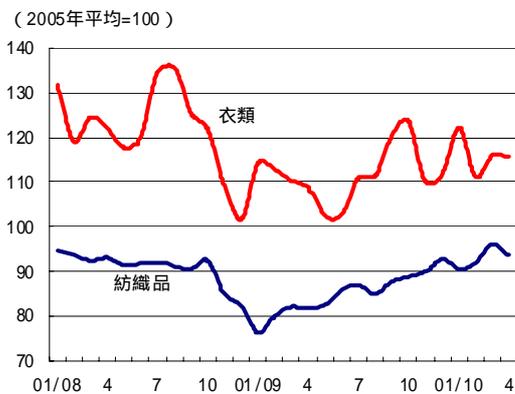
繊維品輸出



相手別繊維製品輸出  
(1~3月)

		輸出額 (100万ドル)	前年比 (%)
紡織品	世界計	2,314	23.5
	中国	428	16.6
	ベトナム	270	13.9
	インドネシア	220	28.0
	米国	179	7.8
衣類	世界計	335	9.2
	日本	94	20.9
	米国	61	-16.1
	中国	60	17.5
	ベトナム	21	38.9

繊維産業の生産指数推移



繊維産業は回復傾向が続く。

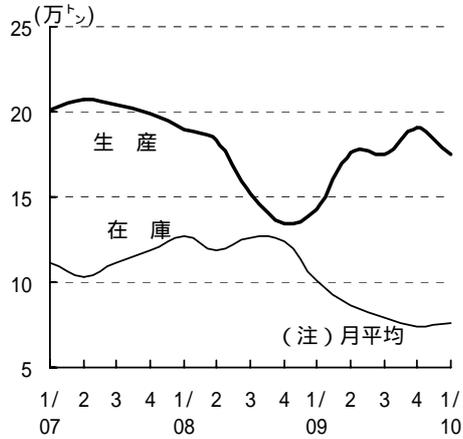
合繊生産は前年同期比 14.3%増の 35.4 万ト、3 期連続の増産。ポリエステルが F、S とともに輸出の回復から 2 桁増。

繊維品輸出は 22.7%増の 29.5 億ドル、2 期連続で前年実績を上回る。相手別には、中国、ベトナム向けが好調。

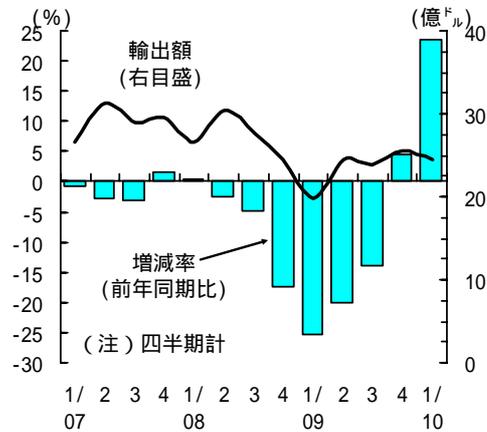
直近(2010年4月)の紡織品、衣類の生産指数は、前年比それぞれ 14 ポイント、6 ポイント改善。

## 8) 台湾

### 化繊生産・在庫



### 繊維品輸出



### 相手別繊維製品輸出 (1~3月)

	輸出額 (100万ドル)	前年比 (%)
世界計	2,447	23.5
中国	522	27.7
ベトナム	319	35.2
香港	301	13.8
米国	222	6.8
インドネシア	119	26.1
タイ	84	21.4
日本	77	31.4

### 主要繊維品生産 (1~3月)

	単位	生産量	前年比 (%)
合成繊維	千トン	522	22.3
ポリエステル加工糸	千トン	172	18.1
ポリエステル織物	100万㎡	266	15.3
各種衣類	千ダース	1,725	3.3

繊維産業は回復傾向が続く。

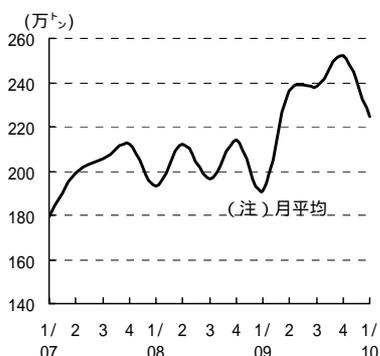
合繊生産は前年同期比 22.3% 増の 52.2 万トン、3 期連続の増産。

繊維品輸出は 22.7% 増の 29.5 億ドル、2 期連続で前年実績を上回る。中国、ベトナム、インドネシア、タイなどアジア諸国向けが増加。

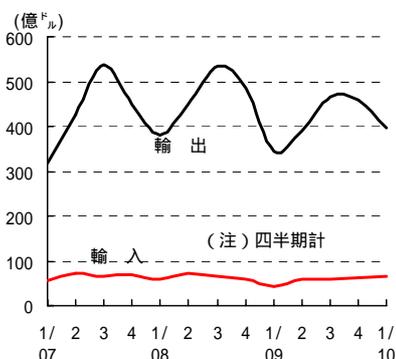
主要繊維品の生産は、ポリエステル加工糸、ポリエステル織物が 18.1% 増、15.3% 増とともに 2 桁増。衣類生産は 3.3% 増。

9) 中国

化繊生産の推移



繊維品貿易の推移



品種別化合繊生産  
(1~3月)

	生産 (万ト)	前年比 (%)
ポリエステル	538.8	15.9
ナイロン	37.5	52.8
アクリル	17.3	6.6
合繊計	615.0	17.9
レーヨン	48.7	42.8
化合繊計	686.0	20.0

主要化合繊・合繊原料輸入実績  
(1~3月)

	輸入 (万ト)	前年比 (%)
ポリエステルF	3.7	9.2
ポリエステルS	3.5	-3.2
ナイロンF	5.0	14.8
アクリルS	5.2	81.6
テレフタル酸	157.7	-1.4
エチレングリコール	169.2	12.2
カプロラクタム	17.7	26.8

相手別繊維製品輸出  
(1~3月)

	輸出額 (億ドル)	前年比 (%)
世界計	403.2	15.4
アジア	173.9	11.4
香港	31.3	12.8
日本	48.2	-5.8
韓国	10.7	30.8
アセアン	28.0	40.8
E U	87.6	16.9
米国	63.3	22.0

繊維業界の主要指標  
(1~2月)

	単位	指標	前年比 (%)
企業数	万戸	5.3	-
欠損企業数	万戸	1.1	-13.2
主要業務収入	億元	5,433	27.9
利潤総額	億元	228	74.6
工業総生産額	億元	5,673	27.1
輸出額	億元	1,042	14.6
就業人数	万人	1,034	0.6

繊維産業の拡大傾向が続く。繊維産業の主要指標はいずれも前年より大きく改善。化繊生産は 20.0%増の 686 万ト、紡績系、織物、衣類の生産はいずれも 2 桁増。繊維品輸出は 15.4%増と前年の減少から回復。欧米向けに回復がみられたほか、FTA の発効したアセアン向けが急増。

J C F A

## 合繊4品種需要実績

### ・ポリエステルフィラメント需要実績

(単位:トン、%)

		2010年1～3月 実績	対前期比	対前年同期比
国内 需要	衣料用 (加工品輸出用含む。)	21,927	105.9	118.5
	非衣料用 (加工品輸出用含む。)	48,218	101.6	146.8
	計	70,145 (25,125)	102.9 (107.5)	136.6 (183.8)
輸出 (原糸、加工系)		4,722	107.2	119.2
需要計		74,867	103.1	135.4
在庫		17,233	86.8	64.6

(注)国内需要の( )内数値は輸入量

### ・ポリエステルステーブル需要実績

(単位:トン、%)

		2010年1～3月 実績	対前期比	対前年同期比
国内 需要	紡績用 (加工品輸出用含む。)	5,470	114.9	106.1
	非紡績用 (加工品輸出用含む。)	32,625	95.4	129.2
	計	38,098 (6,717)	100.3 (96.1)	129.8 (156.7)
輸出 (ステーブル・トウ・トップ)		8,661	111.4	94.2
需要計		46,758	102.2	121.3
在庫		20,735	89.4	87.8

(注)国内需要の( )内数値は輸入量

### ・ナイロンフィラメント需要実績

(単位:トン、%)

		2010年1～3月 実績	対前期比	対前年同期比
国内 需要	衣料用 (加工品輸出用含む。)	8,810	92.0	109.6
	非衣料用 (加工品輸出用含む。)	16,600	104.9	133.6
	計	25,410 (6,362)	100.1 (112.5)	124.1 (130.5)
輸出 (原糸、加工系)		3,925	101.3	148.2
需要計		29,335	100.2	126.9
在庫		9,622	87.8	60.0

(注)国内需要の( )内数値は輸入量

### ・アクリルステーブル需要実績

(単位:トン、%)

		2010年1～3月 実績	対前期比	対前年同期比
国内 需要	衣料用 (加工品輸出用含む。)	6,880	202.2	105.2
	非衣料用 (加工品輸出用含む。)	3,674	155.0	131.1
	計	10,554 (248)	182.8 (65.3)	112.9 (50.3)
輸出 (ステーブル・トウ・トップ)		31,757	117.3	162.5
需要計		42,311	128.8	146.5
在庫		7,909	67.7	63.8

(注)国内需要の( )内数値は輸入量